

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第21号 (2008・12)
事務局川西地区自主防災会

防災は、日ごろからの取組みが大切・・・。
いざその時あなたの備えは大丈夫ですか

香川県防災士会会長 久保 雅和

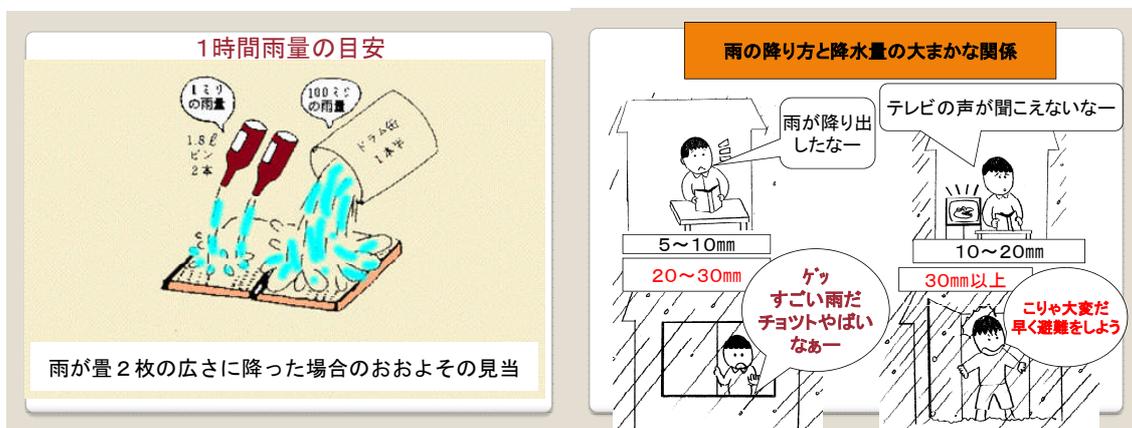
我が国は災害列島といわれています。地震、風水害、土砂崩れ、火山の噴火などによる被害は、人命をはじめとして多大な経済的損失をもたらし、その影響は真に深刻なものがあります。香川県でもこれまでは災害の少ない県と言われていますが過去には、台風や大雨で多数の死者を出すような災害が多く発生しています。戦後の県内の記憶に残っている大きな自然災害を上げてみました。

紫雲丸 から53年

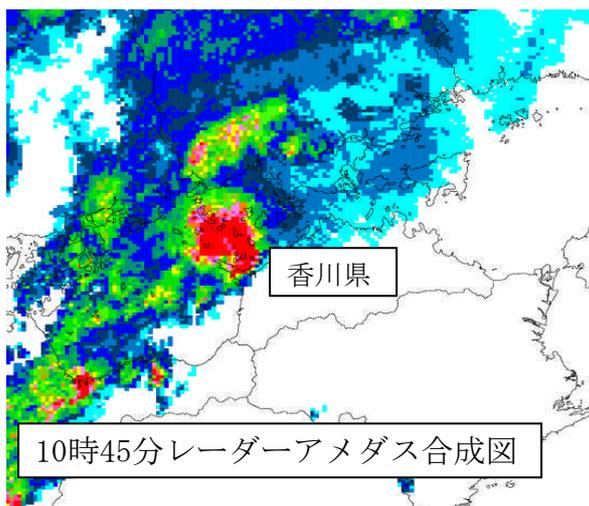
◆1955年濃霧警報(高松地方气象台 05時30分発表)が発表されている中、濃霧の女木島沖で旧宇高連絡船(現在は廃止:旧国鉄)の紫雲丸が貨車航送船第三宇高丸と06時56分頃に衝突(06時40分高松棧橋発の便)衝突し沈没、168人が死亡した。とくに修学旅行中高知市の南海中では3年生28人が死亡した。瀬戸大橋建設の一つのきっかけとなったといわれている。

◆1974年8月末台風と前線の大雨により小豆島で12名の死者を出す大災害が発生。この災害では後日裁判となり行政が住民への警報伝達と伝達時間が問題となり裁判となった。

◆記憶に新しい2004年は8月と10月に合わせて3個(15号、16号、23号)の台風の影響で香川でも稀に見る多数の死者を出す大災害となった。これらの台風では避難した場所で濁流にのまれる悲惨な状況、高潮でも大きな被害、行政の避難勧告の時間、自主防災等について問題を提起するきっかけとなった。



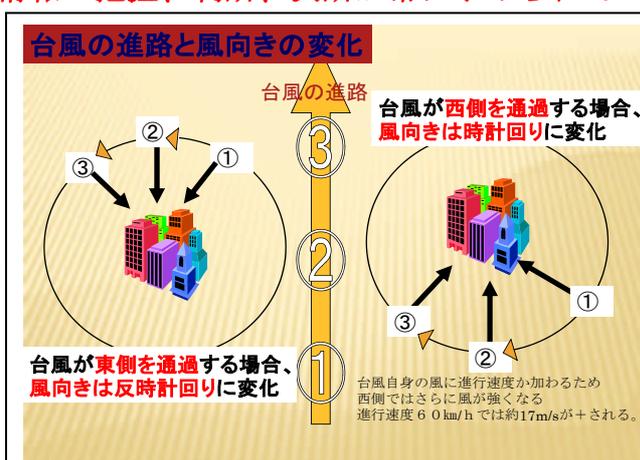
◆先日の2008年9月21日に仲多度郡多度津町と丸亀市を中心に約10分間程度
 の間に突風が発生し、住家の一部損壊や樹木の倒壊などの被害が発生した。多
 度津特別観測所では10時45分と10時50分頃に最大瞬間風速16.5m/s、最大瞬間風
 速22.5m/sを観測した。昔から「朝雷に谷渡るな」との格言があるが、朝から雷
 が鳴るようなとき日中はもっと不安定になり谷をわたってよそへ行っていると
 帰れなくなるというものである。その時のレーダーアメダス合成図及び被害写
 真(資料:高松地方気象台現地調査資料)。



◆10 数年前、全国高校サッカー大会の最中に高知県の高校生が落雷に会い半身
 不随となり、今年大阪府と現地管理者に有罪判決の賠償命令がありました。

**自然災害では現場指揮者の正確な情報の把握、判断、決断が常に求められてい
 る。**これまでの災害の中で事例と
 して洞爺丸台風の例挙げてみた。

戦後間もない1954年9月24日
 ～9月27日、日本海を発達しな
 がら猛スピードで北東に進んでい
 た。その中を青函連絡船「洞爺丸」
 は函館港を出航、津軽海峡で遭難。
 死者1,361名、行方不明者400名、
 負傷者1,601名の未曾有の大災害
 となった。一方、青森港を出航の
 連絡船は青森地方気象台発表の
 風情報を受け出航を取りやめてい
 た。当時は情報の伝達も種類も現
 在ほど発達はしていないが函館海
 洋気象台、青森地方気象台とも両港には台風情報を伝えていた。



**一般に台風(自分の位置するところ右図で
 は台風の経路)が左側を通過する場合は比
 較的安全、右側を通過する場合危険といわ
 れている。**

台風や暴風雨の予測ができれば災害が防げると考えたのはリチャードソン(英国)で、ナイチンゲールで有名なクリミア戦争(1853年～1856年)でロシアの南下政策を食い止めるために、英・仏がロシア・トルコに対して宣戦布告。暴風雨によってトルコの艦隊が全滅。この暴風雨を予測することが出来れば災害を防ぐことができるのでは・・・予測方法を考え実践した。

余談ではあるがNHKで放送が予定されている「坂の上の雲(司馬遼太郎)」では日本海海戦で正岡子規と懇意であった秋山真之(第一艦隊作戦参謀少佐)の「敵艦隊見ユトノ警報ニ接シ、連合艦隊ハ直チニ出動、之ヲ撃滅セントス・・・」と起案した一文に「本日天気晴朗ナレドモ浪高シ」の一筆を加えた美文調の電文はあまりにも有名である。この予報は当時、中央气象台予報課岡田武松氏が「天気晴朗なれど波高かかるべし」の予報文を海軍に連絡、秋山参謀が訳したものである。

少々余談が多すぎましたが今回は風水害について記述しましたが必ず来るといわれている南海・東南海地震への備えもしっかりしていきましょう

防災士会は平成15年4月に日本防災士機構(総務省承認 NPO 法人)が設立され、香川県防災士会も平成19年8月25日に「**災害時には、公的機関のみに頼るのではなく国民の一人ひとりが我が事として、自分の命は自分で守る、地域は地域で守る、職場は職場で守るという気概を持ち、積極的に行動する**」ことを目標に平時は防災のための啓発活動を行い、災害時には被害を最小限に食い止める働きをするため設立され、現在も県民の減災ため微力ながら活動していますのでよろしくお願ひしますので今後ともよろしくお願ひします。

**防災は、日ごろからの取組みが大切・・・。
いざその時あなたの備えは大丈夫ですか**

《確認しましょう》

1. 非常時に備えて⇒家具類の転倒防止や飛散防止を！！
2. 避難時に備えて⇒家族会議や避難場所と経路の確認を！！
3. 連絡時に備えて⇒携帯ラジオと伝言ダイヤル「171」を！！
4. 災害時に備えて⇒自主防災組織に加入し防災訓練に参加を！！
5. 被災時に備えて⇒「非常持出品」と「非常備蓄品」の点検を！！

防災は、日ごろの備えや家族、地域とのコミュニケーションが大切です。
過去の震災では、隣近所の方々により多くの命が助けられています。

香川県防災士会(地域や職場で減災・防災を担う防災リーダー)

連絡先 TEL 0877-86-6558

Email: masa0119@md.pikara.ne.jp